

はじめに

農林水産消費安全技術センター（FAMIC）は、農林水産省所管の独立行政法人であり、農薬取締法、肥料取締法、飼料安全法、JAS法等の法律に基づき、農業生産資材（農薬、肥料、飼料等）や食品を対象として科学的な検査・分析を行い、農業生産資材の安全の確保、食品等の品質・表示の適正化等に技術で貢献することを使命に掲げ、業務を行っています。

農薬の製造者または輸入者は、農林水産大臣の登録を受けた農薬でなければ、製造、加工、輸入等を行うことができません。FAMIC農薬検査部は、この農薬管理の要である農薬登録検査を主たる業務としています。また、農林水産省と連携し、全国から計画的に農産物を収集し、農薬の使用状況、収集した農産物中の農薬の残留状況についても分析調査を行っています。

今般、平成27年度の農薬検査部における調査研究成果を収録した農薬調査研究報告第8号を発行しました。農薬検査部の調査研究は、登録検査業務の遂行に必要な技術力の向上や残留農薬の調査に必要な分析技術の向上を目的としています。また、農林水産省との密接な連携のもと、農薬登録の国際調和を進める上で必要な技術情報等の提供といった役割も担っています。こうした観点から、調査研究の対象については、実験を伴うもののみならず、文献等により収集した情報を分析・考察する調査や論考についても含めたものとしています。

この第8号では、実験を行いデータを得る手法を主にした調査研究の成果4論文と1技術レポート、文献等により収集した情報等を分析・考察した調査研究の成果4論文を掲載しています。また、「米国における農薬の登録規制制度」について分析・考察を実施するにあたり、「連邦殺虫剤殺菌剤殺鼠剤法」等の翻訳を行いましたので、併せて資料編として掲載しています。

本報告書が関係者の皆様の業務の参考になりますことを期待しています。また、農薬検査部では、今後も調査研究に積極的に取り組んでいくこととしています。調査研究の充実のためには、各方面の皆様からのご意見も不可欠ですので、ご指導のほどお願い申し上げます。

平成29年2月

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
理事長 木村 真人

目 次

Influence of helium and nitrogen as carrier gases during capillary GC analysis Yuki TSUKADA, Yumiko KURANAMI, Minori KIMURA and Takashi WATANABE	1
土壤中動態試験における分解物の推定半減期算出方法に係る調査 竹村浩一, 中村正宏, 柴田 仁, 岩船 敬, 高野優美	1 0
薬効・薬害試験の試験方法の調査 佐々木詩織	1 5
EUにおける農薬使用者に対する曝露評価手法の調査 工藤幹子, 大森正和	2 5
米国における農薬の登録規制制度について 鶴居義之	3 6
Relationship between plant uptake of pesticides and water-extractable residue in Japanese soils (Journal of Pesticide Science, 2015, 40(4), 175 ~ 183) Yutaka Motoki, Takashi Iwafune, Nobuyasu Seike, Takashi Otani and Yoshihiro Akiyama	5 0
農薬の環境モニタリングおよび残留農薬分析法の検討に必要な情報 (ぶんせき, 2016, No. 7, 257 ~ 264) 岩船 敬, 元木 裕, 石原 悟	5 9
ミツバチ群における内勤蜂と外勤蜂の識別手法の検討 (植物防疫 第70巻 第8号 (2016年), 63 ~ 66) 大石桂輔, 石原 悟	6 7

平成27年度学会等での発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 1

【技術レポート】

残留農薬分析業務における分析法の検討

(米穀における調査対象農薬追加のための一斉試験法Ⅱ (農産物) の妥当性検証)

佐々木秀幸, 守山智章, 青山吉一, 野村哲也, 山田篤司, 鈴木徹也・・・・・・・・ 7 3

【資料編】

連邦殺虫剤殺菌剤殺鼠剤法 (Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act)

(仮訳)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 9

連邦食品医薬品化粧品法 (Federal Food, Drug, and Cosmetic Act)

(仮訳)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5 4